様式３

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議名
（審議会等名）</td><td colspan="4">相模原市あじさい大学運営委員会
　あじさい大学見直し検討部会（令和２年度第１回）</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局
（担当課）</td><td colspan="4">健康福祉局地域包括ケア推進部高齢･障害者福祉課　電話 042-769-8354（直通）</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="4">令和３年３月１１日（木曜日）１４：００～：１６：００</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td colspan="4">相模原市役所本庁舎第２別館３階　第３委員会室</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委　員</td><td colspan="4">６名（別紙のとおり）</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="4">２名（相模原市シルバー人材センター職員）</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="4">４名（高齢・障害者福祉課長　他３名）</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開の可否</td><td>■可　　□不可　　□一部不可</td><td>傍聴者数</td><td>なし</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開不可･一部不可の場合は、その理由</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td colspan="2">会議次第</td><td colspan="4">１　あいさつ

２　議題
（１）令和４年度以降のあじさい大学について

（２）その他</td></tr>
</table>

審　議　経　過

主な内容は次のとおり。（◎は部会長の発言、○は委員の発言、●は事務局の発言）

１　開会

２　あいさつ
佐藤部会長あいさつ
堤副部会長あいさつ

３　議題
次第に沿って、佐藤部会長の進行により議事が進められた。

（１）令和４年度以降のあじさい大学について
ア　事務局から資料１のうち「あじさい大学の周知度について」から「あじさい大学の課題について」までを説明し、質疑を行った。

【主な質疑】

○　あじさい大学と市民大学とは似通っていると感じた。時代背景があり、高齢者でも働く人が多くなってきている。そこで趣味などへの関わりが少なくなっているのかな。あじさい大学は趣味などをやる。アンケート結果だと仲間づくりとかがあるけれども、受講した人にとってみるとその結果は当たり前だと思う。

「通年講座で増設または新設してほしい」ということで、健康体操が何年か１位、日本史が２番だが、講座の見直しはアンケートの結果を反映しているのかわからない。

地域大学は趣味などとは違う気がしている。お金を払っても民間企業で自分にあったものをというのは確かに今、はやってきている。

●　講座については、アンケート等の意向も踏まえ見直してきた。学科増もその一環であり、例えば水彩画の人気が高いことから１学科から３学科に、中央、南、緑いずれの区においてもそれぞれで開催している。

ただ、ピンポイントで全部希望に沿うことができないことも実態としてある。過去には、例えば麻布大学の協力をいただいた教養講座などいろいろ試みてきた。なるべく希望を酌み入れた形でこれまでも見直しに努めてきた。

○　保健福祉計画を策定する中に、「超高齢社会をめぐる様々な課題に対し、基本的な目標を定め、その実現に向かって取り組むべき施策を明らかにすることを目的とする」（資料１の６ページ）とあるが、これは緊急の課題だと思う。

２０２５年がちょうどピークに当たる年で、あと何年もない。老人福祉法や高齢者対策法などを見ると、高齢者の割合が大体人口の４分の１くらいになる。４分の１ということは、地域社会を形成していくのに非常に難しい状況になるのではと考えている。老人福祉法などの中でも言われているが、高齢者の経験的なものを学習し、学んだものを自分に還すか、さもなければ地域に還すか、そういう内容についてどのように対応した

らいいのかということが一番の緊急な課題ではと思う。

そこであじさい大学も６０歳以上の高齢者が集まって、自分の目的を持った講座を受けていると思うけれども、そういう人たちを抱え込んで、魅力的なものをどう策定したら良いかということを真剣に考える必要があるのではないかと感じる。

考えがまとまっていないが、生涯学習の考え方では、高齢者は高齢者のライフステージに沿った問題点を自分たちで解決する意欲は相当持っているはずである。今度の新しい法案を見ると地域参加型が多い。地域をどのように変えていくかとか、ボランティアなどいろいろなことで自分たちはどうしたらいいかということが載っている場合が多い。だからある程度地域を住み良いようにする場合には、高齢者の力をどのように使っていったらいいかという、大変だと思うけれども、そのような方向性も緊急に必要かと思った。

● 喫緊の課題だと思う。前回示した資料になるが、いわゆる団塊ジュニア世代が多くなるということでは、２０４０年頃まで高齢化が進み、４０パーセント近くが高齢化という話もある。まさにすぐにやらなければならない。第８期高齢者保健福祉計画においても、ボランティア活動などを含めて地域での活動などのアンケート等もして、実際の高齢者の活動状況も把握しながら策定を進めている。今、あじさい大学でという答えはできないけれども、そこは念頭に置きながら市として進めているところである。

○ 自分は「高齢者」と呼ばれる仲間に入った。若い人と一緒に学びたいということで、市民大学があるのかと思ったけれども、高齢者で学びたいという人を対象にした場合、どのようなものが需要が高いのかと考えると、一つは身に迫った問題で健康でありたいということ。もう一つは自分の生活を豊かにしたい、生き生き生活したい。それから自由参加でありたいと。役員やグループを作らなければいけないとか、そういう束縛がないものの方がというのが、結果から見えてきた感じである。しかし社会とつながって少し役に立つようなこともしてみたいというような思いも今の高齢者が思っているのかなというのを感じた。

市民大学の結果があった。これほど少ないのだというのが正直な感想である。安・近・短とよく言うけれども、安いから市民大学良い、でも遠いというのがあった。ちょっと行けない、車がなければ行けないとか、家族に送ってもらわなければ行けないというところ。そういうのを考えると高齢者対象のあじさい大学も、市の施策の中での位置付けを考えて、ここで思い切って目的をより焦点化していく見直しをしてもいいかなという感じを持った。

○ 難しいのだが、例えばこのアンケートをどのように取るか。あじさい大学のアンケートは卒業した人が対象者だと、受講した人の意見しか入っていないと感じる。例えば、会場について、「近くて使いやすい」「ちょうどいい」とで６７パーセント近くあるのだが、これは受講した人である。アンケートの取り方をどうすれば良いのかというのはあるが、ちょっと偏っている感じを受ける。

その他、高齢者があじさい大学を何で受けるのかと言うと、向上心もあるだろうけれども趣味という形で受けるのか、それともさっきの地域づくり大学、あれはどちらかと言うと地域に勉強して学んだこと、体験したことを地域に戻していくというか、そんな

イメージのところがある。両方入っていればもっといいのかもしれないけれども。要するに受ける方がどうしてあじさい大学を受けたいとなるかというと、それぞれ本当に趣味の方もあれば、そのように社会に貢献したいから勉強したいという方もいると思う。そうすると結構違うところがあるという感じがする。

● お話のとおりアンケートの取り方が難しいということで苦しんでいる。

資料１の３ページだが、今回、老人クラブ連合会に協力いただき、あじさい大学自体を知っているか知らないか、参加したことがあるかないか、参加したことがない方については、会場が通いにくい場所だったかなども含めて回答を頂くようアンケートをやらせていただき、その結果を見たいと思っている。もちろんこれが全体像とは言えないけれども、参考にできる資料の一つとしてやらせていただいたところなので、今後、結果も委員にお示ししたいと思っている。

○ 前年度から検討部会に参加し感じたことは、やはりベースが生きがいづくり、仲間づくりということだった。そのベースは変えず、応募人数が悪いというのがあるが、時代とともに仕方がないと思う。当時と違い、他団体、社協があり、公民館とかいろいろ同じようなことをやっている。もっとやりたい人はネットで調べたり、自分で探したりする。だから、専門的にやりたいところはその専門のところに行ってもらう。

高齢者が生き生きするには、健康体操とかパソコンとか、文学とか人気なので、そこのところはそのようなアンケートを踏まえながらやる。人数割れについては、高齢者がアルバイトや仕事をしているので、土曜日とか夜間だと行けるのではないか。６０歳前の方で少し活気を持ってあげるとかの工夫も検討してみてはどうか。

ある程度年数が高くなると、階段があるところとか、少し高齢者に合ったところの会場作りも必要。また南区、中央区、それから緑区と分けていると、やはり人気度が少し変わってくるので、ベースは変えずに来やすい雰囲気づくりをした方が良い。

イ 事務局から資料１のうち「課題への対応（案）について」を説明し、質疑を行った。

【主な質疑】

○ 学科数が３５、短期講座が１０。それを今度１０講座程度にして、健康・介護予防関係（生涯スポーツ関係含む）に集中していくということだが、今までの３５、１０の中で、市民大学の方と類似事業がどの程度あったのか。単純にこれだけ見ると、見方によっては後退したのではないかという意見が出てくるのではないかと思っている。その中で通年講座と短期講座の４５が、市民大学の方と類似性のあるこういうものがあって、残る健康と介護、生涯スポーツを含む１０講座としても、そんなに遜色ないのだというようなデータはあるのか。

● 市民大学でやっているもの、市民大学では、あじさい大学ではやってきたけれどもやらなくなるものもある。

書道はあじさい大学では２学科あるけれども、いずれも市民大学では扱っていない。美術については、例えば油絵だと絵の具を使う、流すという関係があるので、どこでもできるということではなく、多摩美術大学とか女子美術大学などの専門的なところになるので、年によってあったりなかったりというところである。版画についても同じようにあったりなかったりということであるので、ある年度を捉えてこれは全部あ

ったとかという形では難しかったところがある。

健康体操は民間カルチャーセンターでやっているものがある。市民大学でも取り上げたところもある。パソコン関係も、専門的になるもののパソコン講座として開催をしている市民大学もあった。

あじさい大学では取り上げていなかった英会話が市民大学では取り上げられているということがある。大雑把に言うと見方にもよるが、半分程度は今までにやった、あるいはやったことがあるということが言えるのかなと思う。

○　あじさい大学だと何となく趣味的なところ書道とか美術とか、水彩画、水墨画などもある。そのようなものであったけれども、これがほとんどなくなるのではないかということ。大学、そういう位置付けのものが民間か何かだというような感じを受けている。

今まであじさい大学のイメージ、高齢者のそういう生きがいづくりで健康になってもらうのだという感覚が、趣味的な書道とかがなくなって、本当の学問の大学、そういう勉強の場になっていくような気がする。

それは反対だと言っている訳ではないけれども、ちょっと寂しい気がする。

年配の方もそういう趣味的なもので生きがいを感じて、友だちも周りでできる。けれども大学みたいに本当になってしまうと、そこへ若い人も入るからもっと友だちが拡大するという見方もあるが、実際はそうではない。何となくそこにギャップを感じるけれども、どっちを取るかは時代にもよる。そういう気がするというだけ。

○　市民大学の一部にあじさい大学コースができる、すごく狭まった感じがした。市民大学の他の講座があじさい大学の教養一般の代わりだよというわけではないけれども、そういう捉え方なのかというのを思った。

市民大学の目標が大きく一つある。あじさい大学の目的がコース毎に出ることはないと思うので、周知をしっかりしておかないと、今まであじさい大学を楽しみにしていた方の寂しさは募るのかなという気がした。あじさい大学の高齢者の生きがいづくりと仲間づくりに資することは継続ということになっているので、市民大学の目的との包括の仕方はどのようにするのかと思った。

●　市民大学は、大学や市民、行政の連携に基づき、学習機会を提供し、市民の学習ニーズに応えると共に、社会が抱える諸課題の解決に寄与することを目的とするとなっている。基本は変えずに、その中にあじさい大学コースが入り込む。あじさい大学コースの生きがいづくりと仲間づくりの目的は、あじさい大学コースの目的として位置付けるという整理をしたいと思っている。

○　ちょっと違和感を持った、あじさい大学コースという形で。あじさい大学を担当しているところの苦肉の策というか、そのような形でやったのかなと。発展的な中では、市民大学でもこういう学科があったけれども、あじさい大学でやっているのはここのところのこういうのに該当する、それで、市民大学でやっていないこういう分野があったからこれを新設してこれに入れてもらうという整理の仕方の方がすっきりするのかなと個人的には思っている。所管する部局とすると、全く消えてしまうのは対外的にと言うか、市民とか議会に対してもなかなか難しいのかなという感じは持っているのだけれども。

○　あじさい大学の概要を見ているのだが、四つの目標がある、それと目的がある。あじさい大学はどちらかと言うと個人で学習する中の何かが地域とかその周辺に働きかける

という行政の目的が裏にもあるのではないかとずっと思っている。個人学習はそれは結構だけれども、高齢社会になった場合、今は地域が非常に不安定で、地域指導者もいない、地域を考える組織もない。多分、各種団体もなくなる。昔の地域婦人団体だとか青年団、それから今、自治会の加入率も非常に低くなっている。そのようなことを考えると、地域にいる多くの高齢者が学習することによって自分の地域を見直そうという行政的な配慮というか施策があるのかなとずっと思っていた。そうならば、これから地域社会を住み良い仲間づくりをする、地域のつながりをやっていくのにあじさい大学の卒業生は非常に核になるという感じで思っている。

内容が、自分のやりたい学習をやって、それからどうしたらいいかとなるようだが、それも結構だが、やはり高齢者が非常に増える地域をどうしたら良いかという内容も含めて考えた方が良いのではないか。先ほどもう時間がないと言ったのはそのためである。

津久井の方に行くと、バスは過疎化で通っていない、高齢者は自動車の運転はもうほとんどしない。そうすると会合を開くのに非常に不便。不便というか開けない場合がある。若い人はみんな相模原の方に来ている。今困っているのは、地域で総合的な連絡の取り合い、仲間づくりをするというのはほんの隣近所だけしかできない。

相模原市の全体を見ると、神奈川県でも２歳くらい若い。平均からいくと神奈川県が全体で１歳くらい高齢化率が若い。やがてそういうふうに陥るから、何か学習の場で、そういう地域でこうまとめるとか、ある程度隣近所で話し合いのようなそういうのも行政的な方法の一つにならないかなというふうに期待をしている。

● 参考とさせていただく。健康・介護予防関係を中心にあじさい大学コースを組み立てると説明したが、６回やった、はい終わり、次６回やった、またはい終わりではなく、終わった後何らかの形でつなげられるようにしたい。委員が言われる地域でどこまでその内容を使えるのかは、何とも言えないけれども、つなぐという意味では、地域に戻ってもそのような広がり、健康のためにこういうことをやるのだとか、そのようなことに役立てる内容にできればと考えていきたい。

◎ 今日は、前半であじさい大学の今までの状況などの説明があり、こんな課題がある、あるいはこんなニーズがある、このようなことは応えられたけれども、このようなことは応えられていなかったなどの状況の説明があった。

後半はそのような課題に対して、どのように解決していこうかということで案が出た。その事務局案というのが市民大学の中にコースを設ける。ただコースの設け方については委員も言われたように行政的なやり方に少し違和感があるといったこともあるが、一つの提案としていただいた。

委員からは、行政が地域づくりや社会参加などの要素というのは今までもやっていたのだから加味できないかとの発言や、今までの受講者はとても寂しい思いをするのではないかなどいくつか問題が出た。あじさい大学の本当の目的、そこからもう少し考えてもという発言もあった。それら踏まえて、市民大学に一緒になるというところはこの案を残しつつ、そこをどのように今後、受講者あるいはこれから受講すると思われる方たちに向けて改善や提案をしていくとより良い感じになるかという議論がこの次あたりにできたら良いかなというところでよろしいか。

市民大学あじさい大学コースの設立に向けて出された問題点を踏まえて盛り込んだも

のが全てかなえられるかは別の問題であるが、市民大学そのものとして参加する大学や座間市もあり、いろいろな課題があるので１００パーセントといかなくても、この部会としてはこの案に対してこのようなことを要望していく、このような形でより良いものにしていこうということで次回議論いただくということでよろしいか。

○　新たな疑問点も出てきたので、もう一回くらい話した方が良いと思う。

◎　議題１について、本日はこれで終了とする。

（２）その他

次回は４月１６日（金）午後２時から開催することとした。

閉会

あじさい大学運営見直し検討部会構成員名簿

	氏　　名	所　属　等	備　　考	出欠席
1	佐藤　暁	市スポーツ協会　常務理事	部会長	出席
2	堤　　道子	民生委員児童委員協議会常任理事	副部会長	出席
3	板倉　忠臣	老人クラブ連合会副会長		出席
4	八木　鉄雄	民生委員児童委員協議会常任理事		出席
5	八木　朋子	学識経験者		出席
6	池田　直道	市文化協会　会長		出席

（敬称略）